

東京 2020 大会に向けたボランティア戦略について

○ 募集や研修などの運営のあり方、参加者の裾野拡大等について基本的な考え方を示すもの

1 東京 2020 大会のボランティア

(1) 一体的なボランティア運営

- ・組織委員会と都は、**戦略を一体的に作成・公表**
- ・募集、研修などの運営、大会後に向けた取り組みについて可能な限り連携
- ・**本戦略を基に都以外の会場を有する自治体とも連携**に向けた取り組み検討

(2) ボランティア 9 万人以上が活躍

- ＜大会ボランティア＞（組織委員会が担当）
競技会場、選手村などの大会関係施設において、会場内の観客の案内・誘導、受付業務、競技運営のサポート等、直接大会運営に携わる
- ＜都市ボランティア＞（東京都が担当）
空港や主要駅、主要観光地等において、国内外からの旅行者に対する観光交通案内、競技会場の最寄駅周辺における観客への案内等を行う

(3) 東京2020大会においてボランティアが果たす役割

- ・日本人の強みである「おもてなしの心」や「責任感」を活かして行動
- ・自らの役割を心から楽しんで活動に参加し、**大会全体の雰囲気**の盛り上げ

2 戦略の主な内容

(1) 関係自治体等との連携

- ア 競技会場を有する自治体との連携
 - ・都市ボランティアユニフォーム・活動拠点装飾等の統一的デザイン検討
 - ・接遇や大会情報などの**研修を一部共有化**
- イ 全国自治体・地域（団体、交通事業者等）との連携
- ウ ラグビーワールドカップ 2019 との連携
 - ・都市ボランティアの募集を平成 29 年度に一部前倒して実施し、ラグビーワールドカップ 2019 での経験を大会に繋げる
- エ 企業等との連携
 - ・スポンサー企業や各団体等とも連携し、働く世代の積極的な参加促進を呼びかけ

(2) 多様な参加者の活動促進

- ア 障がい者
 - ・募集、研修、配置等、それぞれのプロセスにおける環境整備に取り組む

イ 児童・生徒

- ・次世代を担う若い世代が大会運営を体験できる場を検討
- ＜小学生＞都内の**小学生**が都市ボランティアへ活動を体験できる仕組みを検討
- ＜中学生・高校生＞被災地を含む**中学生・高校生**のボランティア参加を検討
- ＜大学生＞試験日程の配慮の働きかけ等、**大学生**がボランティア活動へ参加しやすい取組を検討

ウ 働く世代・子育て世代

- ・**ボランティア休暇**の整備・取得促進
- ・子育て世代も参加しやすい環境の検討

(3) 募集

＜応募条件検討の方向性＞

- ・平成 32(2020)年 4 月 1 日時点で**満 18 歳以上**の方
- ・ボランティア**研修に参加可能**な方
- ・日本国籍を有する方又は日本に滞在する資格を有する方(大会ボランティア)
- ・日本国籍を有する方又は日本に居住する資格を有する方(都市ボランティア)
- ・**10 日**(大会ボランティア)／**5 日**(都市ボランティア)以上活動できる方
- ・東京 2020 大会の成功に向けて、**情熱を持って最後まで役割を全う**できる方
- ・お互いを思いやる心を持ち**チームとして活動**したい方

(4) 研修等

- ・組織委員会と都が連携し、**共通的な研修**(接遇、大会概要など)を実施
- ・**個別の研修**(リーダーシップ研修、役割別研修、会場別研修 など)を実施

(5) 参加気運の醸成・裾野拡大

- ・シンポジウムの開催や SNS 等様々なツールを通じて、ボランティアの**魅力を発信**
- ・今後、ネーミングやミッション等を策定

(6) 大会後のレガシー

- ・関係機関と連携し、大会後もボランティアとして活躍できる仕組みを構築

3 スケジュール

平成 30(2018)年夏ごろ：**募集開始**